

府内市町村の動き

吹田市

■吹田市は、「千里再生室」を設置した。

千里ニュータウンは、建設されてから約40年が経過し、少子高齢化や住宅の老朽化など様々な課題を抱えていることから、「千里再生室」では、地域の将来像の検討や南地区センターの再整備など、千里ニュータウンの再生にかかる様々な事業を一元的に実施することとしている。

同室では、市民協働による検討会などの取組を通じて、地域コミュニティの再形成を図り、千里ニュータウンが、魅力あるまちとして、他の地域の再生モデルとなるよう取り組んでいく。

大東市

■大東市は、「だいとう学テキスト」を作成した。

これは、市制50周年を機に、地域固有の歴史や文化を掘り起こし、後世に引き継ぎようとするもの。

同テキストは、地域の名所である野崎観音の歴史や、まちに伝わる数々の民話、農業の移り変わりに関する事など、4部作で構成している。

市では、この取組を通じ、市民が自分のまちを改めて見つめ直すことで、郷土愛が育まれることを期待している。



東大阪市

■東大阪市は、「消費者憲章」を4月1日に施行した。

これは、振込み詐欺やネット通販などのトラブルが市内でも増えている中、消費者の権利を明確にし、消費者が自らを守るために行動する心呼び起こすために制定されたもので、全国初の取組。

憲章には、市民が進んですべきことを中心に、市や事業者の責務も明記されており、消費者の主権を確立する姿勢を内外に示している。

市では今後、憲章を通じて、市民への啓発活動や、子どもたちに消費者意識を高める教育を行っていく。

河内長野市

■河内長野市は、市税のコンビニエンスストアでの納付を開始した。

これは、銀行や郵便局などに限られていた市税の納付が、自治法施行令の改正により、コンビニエンスストアでも可能になったことを機に取り組むもの。

初年度である18年度は、軽自動車のみ納付でき、今後、納付できる市税の種類を増やしていくことで、納税者の納付機会の拡充と、市税の徴収強化を図っていく方針。

岸和田市

■岸和田市は、「^{こうのやま}神於山やまあそびハンドブック」を作成した。

市では、市民協働による里山再生の取組の一環で、一般用に「神於山森づくりハンドブック」を作成していたが、子どもたちには難しいことから、ふりがなやイラストを使用して、わかりやすく、楽しめるように工夫しているもの。

市ではこの取組を通じ、子どもたちに山で遊ん

でもらい、山遊びの楽しさと山への愛着が生まれることを期待している。



市では、今後、新駅の設置や、他の地方鉄道との接続などを行い、同市の公共交通の軸とするとともに、経済・産業の振興に繋げたい考え。



全国の市町村の動き

岩手県遠野市

- 遠野市は、県施設に地域整備部を移転した。

これは、県と同一施設内で業務をすることにより、情報共有や事業の効率化を図ろうとするもの。

連携しやすい環境で業務を進めることにより、国道や県道、市道間での除雪作業や維持管理の効率化が期待されるほか、職員の交流を通じた技術向上、将来の権限移譲の円滑化等、多くの効果が期待される。

富山県富山市

- 富山市は、次世代型路面電車システムLRTによる「富山ライトレール」を開業した。

これは、市などが出資する第三セクターが、JRの地方路線を路面電車化し、LRTとして再生を図るもの。

「富山ライトレール」では、ICカードでの乗車券やバリアフリーの低床式車両を導入し、乗客の利便性の向上を図ったほか、地方路線時代の経路を変更し、一部区間で全国初となるLRTのための新たな路線の整備を行った。

岡山県美咲町

- 美咲町は、「小中学校食育推進事業」をスタートした。

これは、朝食を摂らない子どもたちが増えていることから、朝食の補完として、栄養のバランスに優れた牛乳や乳製品を、登校から1限目が始まるまでの間か、1限目と2限目の間の休憩時間に飲食させるもの。飲食代は町費で賄い、保護者からの負担は求めない。

この取組を通じて、保護者に朝食の重要性を認識してもらおうとともに、9月にアンケートによる実態調査を実施し、今後の食育のあり方について検討していく方針。

大分県大分市

- 大分市は、庁舎に設置したスクリーンを使って、広告を放映するシステムをスタートした。

これは、市政情報などの合間に15秒スポットで動画や静止画の広告を放映するもの。

放映する広告は、清掃車や公用車、庁舎壁面などの媒体に一定料の金額で契約している広告主のみを対象に募集しており、放映にかかる広告料は無料。

市では、この取組を通じ、庁舎壁面など媒体の稼働率を上げ、広告料収入の増加を図っていく。